

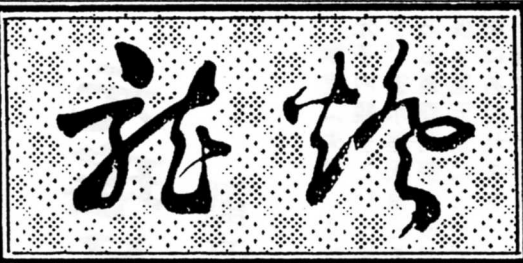
第48号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院
 〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
 TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行所

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



おめでとうオリックス・バッファローズ！
 がんばれ大阪ドーム！

引越し女の大騒音騒動 仏教的解決法は？

「引っ越し！引っ越し！さつさと引っ越し！」大音量の騒音を二十四時間鳴らし続け、布団をパンパン叩きながら、鬼のような形相で怒鳴り散らす主婦。テレビニュースやワイドショーでも度々とりあげられた騒動は世間の耳目を集めました。

「ゴミ屋敷」「マンションでのペット問題」など、隣人トラブルの報道は枚挙にいとまがありません。

私たちは、「みんな仲良く」「他人に迷惑をかけない」「人を憎んではいけない」と教わってきたが、どだい、そんなことは無理なことなのです。

お釈迦さまは、「一切皆苦」といって、人生の現実はすべて思い通りにならないと教えています。生きている限り、いろいろなことがたまたま（厄介事）に見舞われるのです。

人間である以上、社会生活を営む限りは、他人との関係を断つわけにはいきません。お釈迦さまも、「愛する者と別離する苦しみ」と同時に「怨

み憎む者と出会う苦しみ」をそれぞれ「愛別離苦」「怨憎会苦（おんぞうえく）」といって、人間がいくら努力しても回避できない苦しみであると教えています。

日本人はむかし、「引っ越し蕎麦」といったかたちで、隣人とのうまい付き合い方の知恵を持っていました。「あなたのおそば（蕎麦）に引っ越しして参りました。よろしく」の意味で、引っ越し先のご近所に近づき、しるしとして蕎麦を配ったものでした。

こうした慣習は外国にはありません。アメリカでは、隣近所の人々が引っ越ししてきた人の家へ訪ねていくのだそうです。そして、その新来の隣人の家族構成や職業・趣味などを聞き、また自分のほうのそうした情報を教え、お互いの友好関係を確立し時にはご近所を招待して、友好関係を維持高めるのだそうです。ひるがえって、現在の日本では、隣近所のそうした付き合いが薄れてしまいました。日本で



も昔は、醤油や味噌の貸し借りなど、日常茶飯事でしたが。隣人トラブルに見舞われたらそのごたごたをなくそうと考えたいですね。生きていますかぎり、ごたごたはなくならないのですから。

仏教的な解決法は、「忍辱（にんにく）」といって、じっと迷惑を我慢する方法ですが、今回のような場合は、度が過ぎているので、裁判に訴える他なかったとは思いますが。

ここまでこじれたら無理かもしれませんが、思いきって隣家の人を夕食に呼ぶなどしたら、案外和解の糸口が見つかったのかもしれない。どうしても解決できない場合は、別の場所へ引っ越ししか仕方がないでしょう。お釈迦さまも、「縁なき衆生は度し難い」と言っておられます。

